

## 上海訪問記

～ファンドマネージャーがみた中国で到来するキャッシュレス社会～

2017年9月26日

### お伝えしたいポイント

- ・ 「キャッシュレス」社会が到来しつつある中国
- ・ 中国では現金決済からモバイル決済への流れが急速に進む
- ・ モバイル決済ではアリペイとウィーチャット・ペイが圧倒的シェア
- ・ 上海でモバイル決済を体験～無人コンビニ、レストラン、シェア自転車～



### <「キャッシュレス」社会が到来しつつある中国>

中国では今、モノやサービスの支払いに現金を使わない「キャッシュレス」社会が到来しつつあります。特に、スマートフォンを使ったモバイル決済サービスが急速な伸びをみせており、中国は世界最大のモバイル決済市場となっています。今回、中国最大の商業都市である上海市を訪問して、このモバイル決済が上海市民の日常生活に根付きつつあることを痛感しました。もはや財布を持つ必要のない生活の到来を予感させるものがありました。

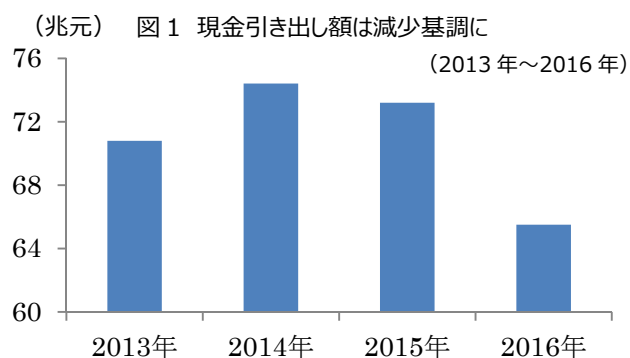
### <中国では現金決済からモバイル決済への流れが急速に進む>

中国支払精算協会によると、中国における現金引き出し額は2014年の約74兆円でピークをつけ、2016年には約65兆円まで落ち込みました（図1）。

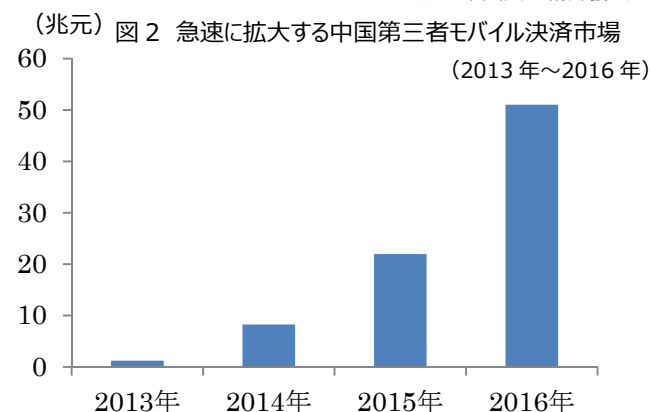
一方で、モバイル決済市場が急速な拡大をみせています。このうち第三者モバイル決済市場の成長は著しく、日常生活におけるモバイル決済の浸透を加速させています（図2）。

こうした第三者モバイル決済の拡大をけん引しているのが、スマートフォンの急速な普及とQRコード決済の活発な利用です。

QRコード決済とは、QRコードに手持ちのスマートフォンをかざすだけで簡単に支払いができる決済方式です。利用者にとって操作が簡単であることに加え、店舗側でも導入コストが低く抑えられるメリットがあります。コンビニエンスストア、レストラン、デパートのみならず、街中の食堂や露店など日常生活の実に様々な場面に浸透しています。



出所：中国支払精算協会



出所：中国支払精算協会、各種資料等

※後述の「当資料のお取り扱いにおけるご注意」をよくお読みください。

## <モバイル決済ではアリペイとウィーチャット・ペイが圧倒的シェア>

中国におけるモバイル決済では、中国で最も普及している SNS サービス「ウィーチャット」を手掛ける「テンセント」が運営するウィーチャット・ペイと、Taobao や Tmall といった EC サイトを展開する「アリババ」が運営するアリペイの 2 つが一般的です。この 2 社は第三者モバイル決済で市場シェア約 9 割を占めており圧倒的な存在です。テンセント、アリババともそれぞれのビジネスで厚い顧客基盤を持っており、顧客が面倒な作業も少なく気軽にスマートフォンを通じてモバイル決済を始めることができたことが圧倒的な地位を築く原動力になったと思われます。

## <上海でモバイル決済を体験～無人コンビニ、レストラン、シェア自転車～>

今回の上海出張では、モバイル決済サービスを活用した様々なビジネスが人々の日常生活に根付きつつあることを痛感しました。無人コンビニエンスストア、キャッシュレス・レストラン、シェア自転車をご紹介します。

### <無人コンビニエンスストア>

中国最大級のスーパーマーケットを展開するサンアート・リテールが運営する無人コンビニ「ビンゴ・ボックス」

#### ① 外観

①



② 入店するために  
ウィーチャットの QR  
コードをスキャン

②



③



③商品を選びます。RFID（電波を用いたタグ）が各商品についており、センサーエリアに商品を置くと商品一覧と価格が瞬時にスクリーンに表示されます。

④



④支払には再び QR コードをスキャンして終了です。

(大和投資信託撮影)

※後述の「当資料のお取り扱いにおけるご注意」をよくお読みください。

## <キャッシュレス・レストラン>

支払いはモバイル決済でしかできないレストラン。余談ですが、香港在住の筆者はウィーチャット・ペイ、アリペイいずれも保有していないため、友人がいなければレストランで食事をとることができませんでした。「現金決済」が主流の時代が終わりつつあることを痛感しました。



(大和投資信託撮影)

## <シェア自転車>

上海ではシェア自転車を至るところで目にします。現在中国では約1,500~2,000万台のシェア自転車が稼働しており、約1億人が活用されていると言われています。

QRコードをスキャンすれば解錠されます。利用時間によって料金が加算され最低1元から利用することができます。再度QRコードをスキャンするとロックされ決済もオンラインで行われます。



(大和投資信託撮影)

— 以上 —

### 当資料のお取り扱いにおけるご注意

■当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和投資信託により作成されたものであり、勧誘を目的としたものではありません。■当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から作成していますが、その正確性・完全性が保証されているものではありません。■当資料の中で記載されている内容、数値、図表、意見等は当資料作成時点のものであり、将来の成果を示唆・保証するものではなく、また今後予告なく変更されることがあります。■当資料中における運用実績等は、過去の実績および結果を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。■当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。

販売会社等についてのお問い合わせ⇒大和投資信託 フリーダイヤル 0120-106212(営業日の9:00~17:00) HP <http://www.daiwa-am.co.jp/>

## 大和投資信託

Daiwa Asset Management